特　別　講　演　Ⅱ

1日目　10月20日（木）16:30～17:30
第１会場（栃木県総合文化センター　1F　メインホール）

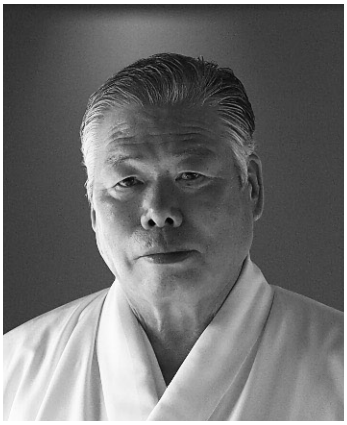
平和の光は日光から

日光東照宮宮司　稲葉　久雄

座長　北島　敏光（那須赤十字病院　院長）

特別講演Ⅱ

平和の光は日光から



日光東照宮宮司

稲葉（いなば）　久雄（ひさお）

【略歴】

1963年3月10日	國學院大學文学部神道学科卒業
1963年4月 1日	東照宮宮掌補を命ぜらる
1980年7月17日	東照宮禰宜に任ぜらる
1982年3月 1日	東照宮総務部長を命ぜらる
1986年4月 1日	東照宮権宮司に任ぜらる
1987年8月 1日	東照宮宮司代務者に任ぜらる
1990年5月 6日	東照宮宮司に任ぜらる
2002年5月	全国東照宮連合会会長に就任
2003年1月	㈶徳川記念財団理事に就任
2003年4月 8日	國學院大學監事に就任
2003年6月	㈶日光社寺文化財保存会理事長に就任
2007年2月	日光ゴルフ㈱代表取締役に就任
2016年7月現在	東照宮宮司（現職）

平成二十七年は御祭神徳川家康公薨去四百年に当たり、日光東照宮は天皇陛下から幣帛料を賜って、四百年式年大祭を斎行しました。また、様々な記念事業・記念行事も行いました。

こうして今活気づいている日光の歴史を辿りますと、先ず奈良時代に勝道上人が日光山を開山しました。鎌倉時代には源頼朝卿の崇敬を得て栄えましたが、戦国時代末期に豊臣秀吉公に敵対して衰退。江戸時代に東照宮が創建されて再び繁栄しました。

東照宮の御祭神徳川家康公は江戸時代二百六十年に及ぶ泰平の世の基を築いて元和三年に薨去され、御遺言に従い、久能山に葬られ、翌年日光に祀られました。その後、二十年を経て、寛永の造替が行われ、現在の社殿が建てられました。東照宮は江戸時代を通して幕府の保護を受け、将軍社参や朝廷からの例幣使派遣が行われました。

ところが、明治になると、幕府の庇護を失った上、神仏分離政策により打撃を受けます。それでも、国家管理下におかれて別格官幣社に列格されていましたが、戦後は国家の保護から離れ、宗教法人として再出発して、現在にいたっています。

東照宮の歴史は一面「社殿修理の歴史」でもありました。江戸時代には幕府の命により定期的に修理が行われましたが、明治になるとこれが途絶えたため、保晃会が立ち上げられ、同会によって修理事業が続けられました。戦後は二社一寺が日光社寺文化財保存委員会を組織して「昭和の修理」を開始し、現在「平成の修理」として、陽明門の修理が行われています。

このようにして、常に社殿の維持を図ってきた東照宮と「日光の社寺」が世界遺産に登録されたのは平成十一年のことで、国内では十番目でした。登録が他地域に後れを取ったのは、その前段階の史跡指定が滞ったためです。史跡指定を受けると、現状変更を行う際に規制がかかるため、これに反対する意見もあり、指定に向けての足並みが揃わなかったのでした。しかし、東照宮は史跡指定・世界遺産登録に対し積極的な姿勢を貫きました。

それは、太郎杉裁判の教訓があったからです。交通渋滞解消の目的で、国と県が当宮御神木の太郎杉伐採を企てた際、当宮はこれを拒んで、裁判で勝利したのですが、もし社地が史跡指定を受けていれば、この事件は起こらなかったのです。こうした経験から、文化財保護のためには史跡指定を受けるべきだとの考えが当宮にはありました。

結果として「日光の社寺」は史跡指定を受け、世界遺産に登録され、文化財保護が確たるものになると共に、地域振興にも役立ちました。

当宮では、日光山内だけでなく、東照宮への参道である日光杉並木も将来に向けて保存すべき遺産だと考えています。この杉並木を保存するため、現在、杉並木オーナー制度が立ち上げられ、保存活動が推進されています。

終わりに御祭神徳川家康公について紹介します。家康公は思いやりの心を持ち、徳をもって世を治めようとしました。その結果、長きにわたる平和な世を実現しました。その生き方の知恵は「東照公御遺訓」に次のように記されています。

「人の一生は重荷を負て遠き道をゆくが如し。急ぐべからず。不自由を常とおもへば不足なし。こゝろに望おこらば困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基。いかりは敵とおもへ。勝事ばかり知てまくる事をしらざれば害其身にいたる。おのれを責て人をせむるな。及ばざるは過たるよりまされり」。

こうした家康公の御事績と志を広く世に伝えるため、当宮宝物館では家康公の半生を描いたアニメーション『徳川家康』を上映しています。

皆様の日光へのお越しをお待ちしております。